

### 先手を打っておけば余裕が生まれる



三井造船株式会社 環境安全管理室  
主管 奥山 元  
Gen Okuyama

#### 米空母の配備から情勢判断

2012年3月に環境安全管理室へ異動となり、海外安全対策を担当することとなった。

環境安全管理室には、担当役員に業務等を報告する「連絡会」が月2回ある。引継ぎ後の初めての連絡会で、担当役員から「イスラエルがイランをいつ攻撃するか分からないか?」と聞かれた。当時は、核兵器を開発中のイランをイスラエルが攻撃をすとのうわさが出ており、国際社会がそれを思いとどませようとしているとの報道が多くあった。イランには当社から数人が出張しており、社員の安全確保を念頭に置いての問いかけだった。

イスラエルはイラクとシリアの核施設を攻撃したことがある。この時の施設は各々1カ所だったが、イランには十数カ所ある。これらをすべて同時に破壊しない限り、イランは核開発を諦めないだろう。だが、エルサレムとテヘランの距離は直線で約1500キロ。イスラエル空軍の所有する攻撃機では、移動中に空中給油等の支援を受けなければイランを攻撃できないはずだ。イラクやペルシャ湾の上空でイスラエル空軍を支援できるのは米軍だけ、イラン攻撃後の報復攻撃に対応できるのも米軍しかない。私はこのように考え、米軍の動きを示すものを探した。そして、ある月刊誌に米空母の位置が掲載されていたことから、その配置を見て「イラン攻撃」

の有無を推測することにした。この一件をきっかけに、米空母の動きを観察するようになった。朝鮮半島情勢が緊迫化している現在も、米空母の位置から冷静に対応を判断している。

日外協の海外安全グループ研究会〈東京B〉では、毎回冒頭、世界中に展開されている米空母の動きに基づく国際情勢分析について、私から研究会メンバーに説明をしている。

#### 海外出張決裁基準を厳格に守る

当社の出張決裁基準では、外務省危険情報のレベル1～2の地域への出張は事業本部長が決裁する。レベル3の地域は原則禁止で、やむを得ず出張する場合は副社長への特別申請が必要になる。レベル4なら出張禁止としている。

14年3月末に、3日後にレベル3の地域に出張する社員がいることが分かり、出張者を所管する事業本部に副社長への特別申請が必要なることを連絡した。たまたま副社長が海外出張中だったため、社長から決裁をもらうことになった。事業本部長も呼び出され、出張の業務、現地の移動経路等を説明し、1日で決裁は下りた。だが、その決裁後に社長から「決裁基準を厳格に守れ。特別申請の際は、決裁までの日程を考えてから申請させろ。渡航間際の申請は、日程やフライト等が決まっても許可するな」との指示があった。即社内に通達するとともに、今もこの指示を守っている。